

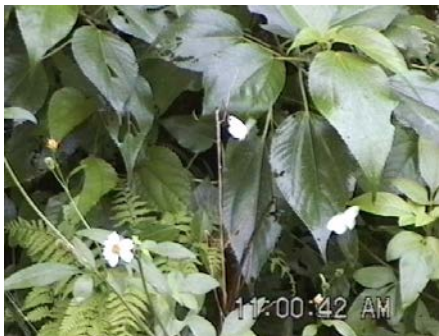
1996年10月11日 与那国島アギンダ

広場への帰路、左山手の薄暗い崖淵の奥まったところをかぼそい小さなシロチョウが弱々しく飛翔しているのが目に入る。日本ではここ与那国にしかいないクロテンシロチョウだ。それにしてもあまりに小さい。ブッシュの隙間にネットを入れてこの可憐ともいえるシロチョウを採る。クロテンシロチョウとの初めての出会いはまことに印象深く今でも可憐な飛翔が目につく。翌日、このシロチョウが、ほとんどがもっと大きな個体で群をなして飛んでいる場面に出くわすなんて、このときは考えもしない。さて帰ろうかとしたとき、赤と黒2種類のネットをかついだ同好者(後に空港で航空券格納用としてサービスされた簡易紙フォルダーの空いた部分に住所と電話番号を書き記してもらって初めて埼玉の塩満裕さんだということを知る)が徒歩で上ってくる。これまでのお互いの成果を語り合うなかで、さきほど珍蝶を採ったんだと興奮したクロテンシロチョウがウジャウジャいるところを回ったとの話はまだ実感としてイメージできない。

1996年10月12日 与那国島桃原

第一便のキャンセル待ちはとてまかないそうになく予定どおりの第二便で帰ればいと判断して、大きなリュックを売店に預け徒歩での空港まわり探索に出る。滑走路を右手に舗装道路をまっすぐ進む。蝶採集案内書には左手に小道をたどればポイントがいくつかあるとの記載があるが、どの小道も雨でぬかるんで入り込めない。やがて滑走路を背にして遠ざかる位置まで歩いた頃、後ろから走ってきた白い商用車が近づき気味にとまるや運転していたおじさんが「どこにゆくのか」と声をかけてくれる。電力会社の車だ。「蝶のいそうなところを探している」と答えると「乗りなさい」という。直角の三叉路を左にとってどンドン山側に進み「このあたりから蝶がいるよ。この道をまっすぐゆけば久部良で食事もできるから」と降ろしてくれる。地元のひとのなにげない親切には本当に感謝の気持ちでいっぱいとなる。

路面は雨ですっかり水浸しだが、早速、クロテンシロチョウがあちこちでセンダングサの花を



求めて飛び交っているのが目に入る。蝶のネットインはきわめて容易だが、路面や草に触れるたびにびしょぬれとなるのには閉口する。やがてYS11の爆音から第一便の到着、そしてしばらく後には離陸したことが分かるがいずれの場合も機影はみえずキャンセル待ち番号が若かった

塩満さんは無事乗れたらどうか。

クロテンシロチョウの多い道を久部良の方向に進んでみると、左手下に牧場、道路沿いにはスレート造りの牛小屋がある所で、遠くの山際にツマベニチョウが複数頭、ときには低い位置まで下りてくる情景が広がっている。残念ながらネットインできそうな場所はなく遠目に南国のチョウが遊ぶ姿を楽しむだけ。このとき突然激しい雨が襲いかかるように降りはじめ、牛小屋まで駆け戻りわずかな軒下でしのぐはめとなる。内部が見えない小屋には番犬がいて、外の筆者の気配に激しく吠えるのがつらい。雨水が覆った道路を赤い軽自動車ですさまじい水しぶきをあげて走り去る。めったに車の通らない道だと思われ、この赤い車をヒッチハイクすべきだったと悔やむが道路側に雨をしのげる空間のないことが無念。今後はせめて音の気配だけでも逃すまい、そう決めた矢先に車の気配。雨の中軒下から外に出ると白い車がすぐ気づいてくれて停車する。なんと、濡れた窓越しに見えた運転者は塩満さんではないか。助手席に招き入れてもらったときの嬉しかったこと。キャンセル待ちがかなわないと分かった後、直ちに筆者がいそうなところを探して車を走らせてくれていたとのこと。この優しい心づかいにはどんな言葉も言い表す言葉はなく

ただただ深謝の気持のみ。

2002年9月15日 与那国島桃原

自転車で行った1998年6月に台湾モンシロチョウを見た場所からすぐの坂道路傍の樹陰部に注意すると、クロテンシロチョウがただの1頭、チラチラと影部分を縫うように飛んでいるのが目に入る。これでは撮影は至難の業。こうなれば1996年10月に悪天候のためにYSIIが飛べなくなったことを契機として偶然出会えたクロテンシロチョウの別のポイントへといってみるしかない。与那国空港から久部良へとつながる道路沿いで、適度にセンダングサの花が咲くそのポイントには幸い複数頭のクロテンシロチョウがフワフワと遊んでおり、与那国島にはハブなどの毒ヘビがいないことから金子先生はブッシュの中まで入り込んでオス、メスが戯れる情景をたっぷり記録される。筆者もデジカメを駆使して少しでも絵になるショットをとチャレンジするが、加古川の立岩さんが開示しているみごと



にセンダングサの花が咲くそのポイントには幸い複数頭のクロテンシロチョウがフワフワと遊んでおり、与那国島にはハブなどの毒ヘビがいないことから金子先生はブッシュの中まで入り込んでオス、メスが戯れる情景をたっぷり記録される。筆者もデジカメを駆使して少しでも絵になるショットをとチャレンジするが、加古川の立岩さんが開示しているみごと

な生態映像には程遠い：<http://www2.ocn.ne.jp/~tateiwa>。

2003年10月30日 石垣島オモト林道

金子先生がシロオビヒカゲのビデオ撮影に成功された竹やぶのあるわき道へと入り込むと、いつのまに石垣島でも発生するようになったのか薄暗い草むらをヒョイヒョイとクロテンシロチョウが飛ぶ。与那国島産にくらべてずいぶん大型にみえ、記録として残す必要があるとの思いでネットに収める。筆者と同じ兵庫からみえた男性と出会うと、クロテンシロチョウが石垣島でも発生していることに驚いたと話してくれる。林道を全面アスファルト化したせいだろう、かつては好んで路面の湿り気を求めて飛来したヤエヤマイチモンジには全く出会えず。例年9月にはたくさんみたヤエヤマカラスアゲハの姿も少ない。オオイワガネの多いポイントにヤエヤマムラサキの発生跡はなく、路傍のシロノセンダングサに蜜を求めるクロテンシロチョウを逆光角度のデジカメでねらってみるのが精一杯の楽しみ。



2007年11月5日 石垣島野底林道

石垣島玉取岬の手前に野底林道という道標が目に入り、車で進入してみたが、路傍に咲くシロノセンダングサを訪れたクロテンシロチョウとアカセセリをみただけ。



2012年12月2日 与那国島

妻との同行では初の訪問となる与那国島はやはりクロテンシロチョウが多い。アギンダの荒れた植物研究所のセンダングサのある草地でフワリフワリと飛び遊ぶ様子をビデオ撮影する。この日は、台湾モンシロチョウ、台湾キチョウも多く、新鮮な秋型のタテハモドキもいい記録が撮れたが、ハイビスカスを訪れたツマベニチョウは、あいかわらず一つの花に長くいてくれないので満足のいく撮影記録は撮れないまま。

